

MACF 礼拝説教要旨

2022年3月13日

「裁くな。赦し・与えよ。」

ルカによる福音書6章

6:37 「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。

人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。

赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。

6:38 与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、

揺すり入れ、あふれるほどに量りをよくして、ふところに入れてもらえる。

あなたがたは自分の量る秤で量り返されるからである。」

6:39 イエスはまた、たとえを話された。

「盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。

6:40 弟子は師にまさるものではない。しかし、だれでも、十分に修行を積み、その師のようになれる。

6:41 あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。

6:42 自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、

『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。

偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。」

原文には「人を」という言葉はありません。「裁くな」だけです。

誰かを、何かを「罪に断定する」とか「悪と断定する」とか「自分の価値観で決めつけてしまう」ことについての注意がここにあります。そして、私たちは常にそういうことを繰り返しながら生きています。

人間はいつしか、裁かないではいられないような性格をもっているのです。

イエス様のことでさえ、裁いてしまうことがあるのです。

1) 裁くな

人を断罪する背景にあるのは「優越感」「正義感」「使命感」はたまた「悪意」「軽蔑」などがあるかもしれない。

つまり、そういう心があったら、心の中にはほぼ間違いなく、いつでも「裁く気持ち」が

存在しています。その裁き、断罪、裁定が正しいこともあるし、間違っていることもあるでしょう。

イエス様は「裁くな」と教えました。

つまり、私たちが裁きたい気持ちに襲われた時、それ自体の感情、それ自体の傾向性を否定せず、それでも「裁かない」ということは可能です。

2) 赦し、与えよ

イエス様は積極的な行動として赦すこと、与えることを命じています。

それによる報いの大きさも語られています。

3) 丸太とおがくず

これらの話の全体を理解するためにイエス様がお話になった例えを心に留める必要があります。

6:41 あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。

6:42 自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。」

私たち、裁く傾向を持っている私たちの目にも心にも「丸太」があることに気づく必要があります。

つまり、裁くという態度も、赦す、与えるという行為にも気をつけないと「優越感」「報いを求める心」が育っていて鼻持ちならない「これ見よがしの行動」が見え隠れしています。

まずは、それに気づくことが重要です。

そして、「裁くな」という言葉を他者にだけでなく、自分に対しても適用する必要があることに気づかねばなりません。私たちは、案外簡単に「自分を断罪」します。本当の心がどこにあるかは別にして、「こんな事ができないなんて、クリスチャンとして私は駄目な人間です」などと言葉にする癖を持っている方々が大勢います。でも、これは自分を裁いています。

裁きはイエス様によって裁定済みなので、私たちは自分を断罪せず「神さま、こういう気持ちに溢れている自分がここにいます」と神さまにしっかり知らせる必要があります。そして、それ以上は自分についてはコメントする必要はないのです。

イエス様の私たちのための十字架による裁きの死にお任せするのです。

まずは、自分の心を神さまのまえにさらけ出し、平安をいただくことから、すべてが始まります。

「他者を裁いている自分を意識する」

「自分を実に甘く、しかし言葉で断罪している自分を意識する」

「自分の中にある他者への、そして自分への裁きの傾向を自覚し、それをそこで認め、自分を断罪しない」

「その状況をキリストのところにもっていく」

その作業のために黙想や瞑想、深呼吸はとても有益です。

こういう連続から自分の心の嵐を収めつつ前に向かうことができるようになってきます。

心を騒がせることなく赦し、与えることができるようになるために

自分のありのままを神さまのまえに持ち出して、十字架による取り扱いを自覚する必要があるのです。

まずは、やってみないとわかりません。

今週、これらのことを心に留めつつ、生活してみましよう。

祝福がありますように。